

じょうぎょうじうらいせきむつうらにちようめさ
んばんちやぐら

上行寺裏遺跡(六浦二 丁目3番やぐら)

(金沢区No.40遺跡)

調査期間 20080501～20080522

整理期間 20080523～20080630

所在地 横浜市金沢区六浦二
丁目 4224 番地

時代 中・近世



概要

本遺跡は、神奈川県横浜治水事務所による、平成20年度六浦二丁目仲東地区急傾斜地崩壊対策工事に伴って調査されました。

上行寺裏遺跡は、東西・南北ともに500mほどの規模を持つ丘陵のほぼ全体を範囲としますが、丘陵の崖面には、やぐら等の遺構が多数確認・調査されており、周知の遺跡となっています。調査地点は、丘陵南側に開口する谷戸の東側崖裾にあります。

発掘調査では、やぐらと石塔が発見されました。やぐらは造営開始時期を明らかにできませんでしたが、石塔には中世の宝篋印塔笠や近世の無縫塔・墓石等があり、近世の石塔は、紀年銘によりやぐらの前面の平場にあった中世に創建された臨濟宗嶺松寺歴代住職の近世墓であることが判明しました。しかし石塔は、組み合わせや出土位置等からいずれも本来の造立ではなく後世に集積されたことが明らかとなりました。

また、やぐらから埋納穴が発見され、そこからは歯25本を埋納した近世後期の蔵骨器が出土したことにより、やぐらが近世に埋納儀礼に関する場として機能していたことが明らかになりました。



▲3番地遺跡近景



▲3番地墓石出土状況



▲3番地埋納穴